

DIGITABLE 第 116 回勉強会レポート

2018 年 6 月 23 日 於：江東区森下文化センター 第二研修室



高木講師の講座風景

研究講座：「モニター調整：アナログ的調整＋カラーモンキー Smile」：平野正志講師
“ライトニングトーク” 希望者各自 3 分
会員発表：渡邊英昭同人：実践報告「仕事の現場から」
撮影技術講座②「iPhone での写真・動画撮影」：高木大介 講師

DIGITABLE 写真技術研究会 (HOME) <http://www.digitable.info>

Digitable 研究講座「モニター調整」

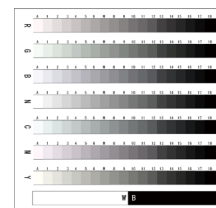
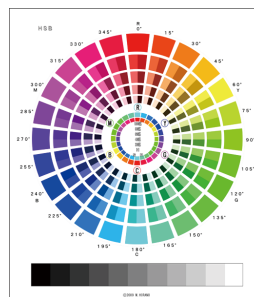
：平野正志講師

■アナログ的方法：質問がよく寄せられるのが、「プリント結果とパソコンモニターの違いをどう解消するか」というもので、アナログ的な調整方法を紹介します。モノクロトーンなど数値的に作ったいくつかのチャートを用意し、フォトショップで表示する。次にプリントで色補正なしの工程を選び印刷する。印刷されたものはデータ的に整ったものをそのまま印刷したことになり、プリンターでは色調整されていないことになる。このプリントと画面を見比べ、モニター画面のほうの色調なりコントラストなりを画面の調整などのグラフィックボードのソフトなどで両者の差を修正するように調整する。

■カラーモンキー Smile を紹介する。

1 万円を少し超える値段。モニターのキャリブレーションだけに特化した機能しかないが、アナログ的手法よりは確実性があるだろう。ソフトをインストールし、USB につないで、マウス状の測定器を画面に吊り下げるように設置する。スタートを押せば自動で測定が始まる。測定の終わりを約 10 分待つと、変更前と測定に基づく変更後の画面を比べる表示が出て調整の具合を確認できる。シンプルな作業と分かりやすい表示でモニターのキャリブレーションができるのは便利だろう。

※当日会場でこのような測定機器を使用しモニターの管理をしているか参加者に訪ねるが、数名にとどまった。



※カラーチャート
※0～255までのモノトーンのチャート
※色かぶりのチャート



マウスのような形態で、USB に差し込み、あとは測定を自動で進める、約 10 分ほどで終わる。

参加者希望者による“ライトニングトーク”

伊東浩会員：広角レンズの使い方

東京駅中央口側の全景を行幸通りから撮影する場合、間口は 330M、距離は 150M あるので画角は 100 度になる。16 ～ 36mm のレンズでなければ撮れない。

フルサイズセンサーと DX レンズ 10 ～ 20mm の組み合わせではイメージサークル内の水平画角が使えるので、周辺部を切り落として画像として成立させる。更にフォトショップのフィルター広角補正を使って整える。DX 魚眼レンズ 10.5mm で撮影するとフードの陰が写り込む。フードは前玉の枠と一体の構造なので鏡筒から外してからフード部を全部切り落とす。作業は少々リスクだ。除いたフードはレンズキャップの内側に貼り付けることで、前玉との間隔を保てるようになりレンズ先端の保護になる。

永富雪子会員

ラベルマイティとビスタプリントによる写真集の製作 / パスティング体験談
先日 80 歳になられた方の誕生日パーティーで撮影をした。ラベルマイティは写真のレイアウトのほか、一部を重ね合わせたり、前後に入れ替えるなど編集の自由度に優れていて重宝している。(提供ジャストシステム)
フォトブックの製作はネット印刷通販サービスのビスタプリントを利用している。写真のレイアウトはラベルマイティで予め整えておいてビスタプリントに発注している。

クライアントの方に勧められて、先日パスティングに挑戦した。その顛末を楽しそうに報告された。パスティングとは、断食と酵素を取り入れたダイエット法で、専門家の指導のもとで 1 週間のプログラムを体験した。体重が落ち血圧も下がり良い経験をした。

会員発表：渡邊英昭同人：実践報告

今回、テレビ番組のコンテンツ作りをアシストするために NHK の制作班に同行した。カメラは NHK が開発したスーパーハイビジョンと呼ばれる最新の 8K フォーマットを持ち込んで、オーストリアの都市で撮影が行われた。カメラの精度が損なわれないように、機材の搬送と運用は相当慎重に行われたようだ。予備機を含めると持ち込んだ機材の総重量は 1 トンを超えた。ボディとレンズの総重量は 20kg 近くあるそうで、設置後のポジション変更は相当困難であるらしい。

今は何組かのチーム編成で、10 台のカメラを運用しながらコンテンツ制作を進めている。費用の話では、開発に 1 台あたり 1 億円を費やしている。このカメラの感度は TRI-X レベルだそうで、屋内などの撮影では環境光だけでは難しい。ロケハンがとても大事になる。8K では相当シビアなピントが要求されるので、フォーカスマンとして専門のスタッフが従う。パンニングも思った以上にゆっくり行わないと高精細画像を観る側が疲れてしまうようだ。「映し出す画面の大きさによって映像の造り方を変えている」と制作スタッフは話す。8K の高精細をコンテンツにどう活かすのか課題を意識しながら制作を続けている。

未だ 8K モニターなどのインフラがまだ整っていない。NHK は年末までに全国の市町村などに 50 台ほど設置する計画だそうだ。

最後にサポートジャケットと云う保護具を現地に持参して使用した話になった。若い撮影スタッフたちも重量のある機材を運ぶときには全員が着用して背筋や腰、膝を保護したのだと言う。

8K の撮影では RED 社製(米国)が供給する軽いカメラがかなり使われているようだ。

撮影基礎講座「iPhone での写真・動画撮影」：高木大介講師

Digitable 代表の高木氏が、この春から iPhone 8 を使い始めた。

早速、内臓カメラの機能に着目し、写真家の視点で道具としての可能性を隈なく調べ上げて披露した。

Apple 社もスタートガイド以外は、ユーザーへの情報提供は自社のウェブサイトへ誘導するという理念に沿って行われる。分厚いマニュアルが添付されるわけではないので、使用する機会がなければ見過ごされている機能もあるのではないか。私たちは自分が普段使っている携帯のカメラモードを全て理解して使いこなしているわけではないと思う。

当講座は、iPhone のカメラを我々が作品作りの道具に加えるかの選択と、表現の可能性を拓ける使い方を Apple 社のマニュアルにも劣らぬほど詳細に解説した。「スロー」モードや「タイムプラス」モードは使って楽しめる。セルフタイマーの利用、AE/AF ロックは利用価値が高い機能だ。メモ代わりに越えて作品作りに使ってみるのも有りだと思う。(TATE 記)



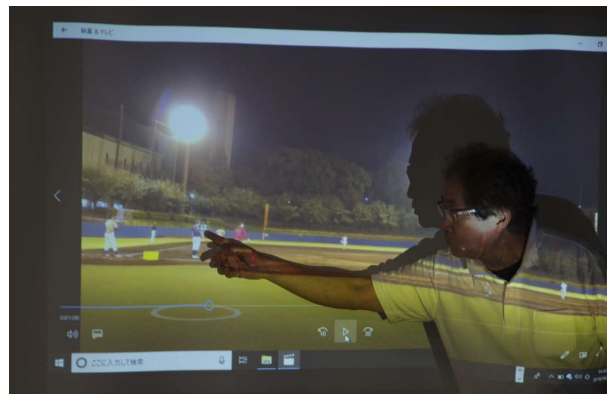
伊東浩会員：広角レンズの使い方



身振りを交えて発表する永富会員



撮影補助用のベストを装着して見せる渡邊同人



iPhone でのナイター撮影映像を見せる高木講師

DIGITABLE 写真技術勉強会 不許複製 (C) Digitable.info. 20180623 All Rights Reserved
